

27D-pm07

レスポンスアナライザ（授業応答システム）にスマートフォンを活用した授業改善の試行：学業成績との相関について

○武田 直仁¹, 小林 建太郎² (¹名城大薬, ²デジタル・ナレッジ)

(目的) スマートフォン (スマホ) をクリッカーとして活用した授業形態が、実際に適用科目の学習到達目標の成績向上に寄与するものか探索した。

(方法) 基礎薬学演習 (物理) (3年次選択科目) にスマホ対応のオンラインクリッカーサービス [クリカ] を利用した双方向性授業を試みた。2014年5月12日、履修学生 117名を対象としたアンケート調査を実施した。質問票はクリカによる授業理解度変容についての質問とクリカの評価についての自由記述欄からなる。

(結果・考察) クリカを用いた授業形態に関する自由記述の内容分析し、肯定的記述を「1. 役に立った」、無回答と肯定的とも否定的ともいえない記述を

「2. 無回答・どちらとも」、否定的記述を「3. 役に立たなかった」に類別した。約5割の学生は「1. 役に立った」と答え、約3割は「3. 役に立たなかった」と答えた。また、約2割は「2. 無回答・どちらとも」と答えた。3群間で本科目の期末試験点数、前年度までに履修した全科目の平均点の数値の差が有意であるのかをFisherの直接法により X^2 乗検定をしたが、3群間の点数にはほとんど差がなく有意差も認められなかった。この結果は、クリカを用いた双方向授業の導入は有用であると認識されているが、評価の良し悪しは本演習科目の成績に影響を及ぼすものではなかったことを示唆している。しかし、クリカの評価と「1. 役に立った」群と「3. 役に立たなかった」群において前年度までの学年順位 (成績) との関連を検定した結果、平均点の中央値を比較した場合において、有意な差が認められた ($p=0.029$)。すなわち、「3. 役に立たなかった」群は「1. 役に立った」群に比較して成績の良い学生が偏って集まっている群であることを示唆している。